

推薦図書

『THE MISSING PIECE』(日本語版「ぼくを探しに」)
Shel Silverstein 著 (日本語版 倉橋由美子訳)
HarperCollins (日本語版 講談社)

推薦教員
福祉心理学科
江間 由紀夫教授

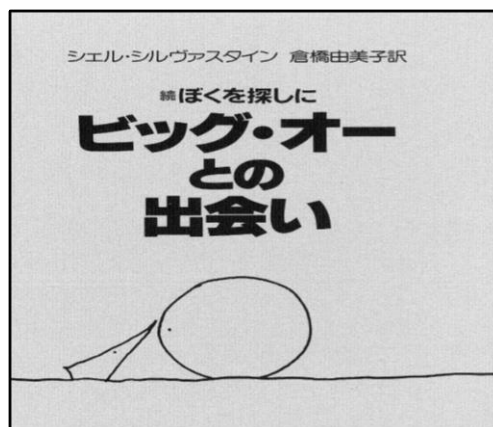
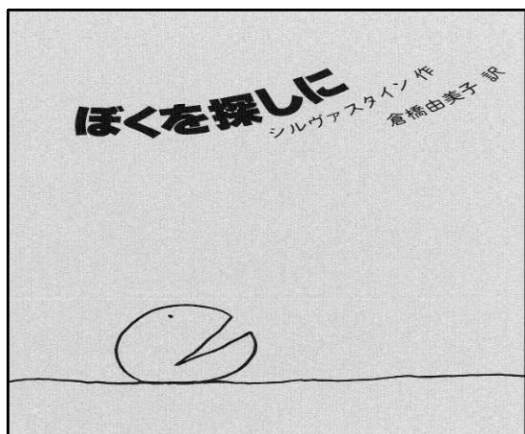
作者のシェル・シルヴァスタインは、アメリカの漫画家・絵本作家・イラストレーターで、詩人としても知られています。彼の「大きな木」という絵本を読んだことがある人もいないのでしょうか。彼の作品は、サインペンでサラサラと描いたようなシンプルな絵と言葉で綴られているのが特徴ですが、どれも多くのことを考えさせてくれる内容になっています。

私がこの本に出会ったのは、大学1年生の頃でした。授業をサボって…じゃなくて、ちょっとした空き時間(笑)を作って、図書館の児童書のコーナーをぶらぶらしていました。そんな時、本棚の中から落書きみたいな絵が表紙になっているこの本を見つけました。英語版でしたが、簡単な単語だけしか出てこないのもそのままパラパラとめくっていくうちに引き込まれていきました。

本の内容は「ぼく」が自分の欠けた部分を探す旅に出るお話です。「ぼく」は、ぴったり合う欠片(カケラ)を見つけるまでに様々な体験をします。そして苦勞の末に完璧な欠片に出会い、完全な自分になれるのですが…。続きはぜひ自分で読んでみてください。

「ぼく」が探している欠片が何を意味しているのか、いろいろ考えることができます。彼の旅は、自分探しのようでもあるし、パートナーを探しているようでもあります。社会福祉の専門職としては、「普通」や「障害」のとらえ方にもつながるようにも感じてしまいます。シンプルな絵と言葉だからこそ、読み手の受け取り方によって色々な意味を見出すことができるのだと思います。

実はこの本には続編にあたる「The Missing Piece Meets the Big O」(ビッグオーとの出会い)もあり、今度は欠片の側からのお話になっています。こちらもオススメです。



日本語版の本です。
教員推薦図書架に
展示中です。
ぜひ、読んでみて
ください！！